

静岡市立の高等学校の在り方に関する提案書(概要)

～未来の静岡の創り手の育成に向けて～

令和8年2月

静岡市立の高等学校の在り方検討委員会

I 背景と現状

・急速な少子化の進行

2040(R22): 約34%減少
2050(R32): 約42%減少 ※対R6比



・私立授業料無償化による公立離れの加速、全国的な再編統合

・市立2高校(清水桜が丘・静岡市立)ともに定員割れ等の厳しい状況

使命の進化

「量的な供給責任」



「質的な供給責任」

未来の静岡を創る人材を育成する
「選ばれる学校」への転換

IV 実現に向けた意見・要望

在り方に関する市の迅速な方針決定と市民への丁寧な説明

教職員の配置に関する県への依存体制の抜本的な改革

市の地理的・人的リソースの活用による持続可能な連携体制の構築

魅力ある教育環境を実現するための積極的な投資

通いやすさへの配慮とわかりやすい進路実績の指標の提示

在校生及び教職員への配慮と県教育委員会との緊密な連携

中長期的(2040年頃まで)な視野をもった学びのデザイン

III 「新しい静岡市立の学校」の姿

中核となる学び

～多種多様な産業を有する静岡市の次代を創る、グローバルな視野と論理的な思考力の育成～

国際・グローバル

情報・理数

方向性① 中高一貫校

6年一貫による「時間的ゆとり」

【知的好奇心の深化(深める)】

受験のない時間を、文理の枠を超えた「探究活動」や興味ある学びの追求に充てる。

【発展的な挑戦の創出(広げる)】

先取り学習で生まれた時間で、海外研修や大学連携など高度な実践に挑戦する。

【試行錯誤による自己形成(育てる)】

6年間のゆとりの中で、失敗を恐れず自分の志や生き方をじっくり見つめ直す。

方向性② 全日制単位制高校

単位制による「自律的な学習機会」

【主体的な学びの設計(選ぶ)】

主体的な履修計画の作成を通じて、自らの学びを調整・管理する力を養う。

【社会とつながる実践(試す)】

地域産業と直結した学びやインターンシップを通じ、社会の課題に挑む。

【自律的な進路設計(切り拓く)】

確かな自己形成力を基盤に、自らの可能性を広げ、将来を切り拓く。

II 基本理念と基本方針

基本理念

静岡市に新たな価値を創出する、
卓越した強みと行動力を備えた人の育成

基本方針

① 未来の静岡の創り手を育む学校

地域と連携し、静岡の未来を自ら切り拓く志を持つ人材を育てる

② 生徒一人一人の強みを伸ばす学校

時間的なゆとりを生かした探究と自己決定により、創造力と行動力を磨く

③ 独自の価値を持つ学校

国際・理数を軸に、文理融合型の先進的で大胆な教育に挑戦する

④ 県全体の中核を担う学校

志高い生徒が集まる学校として、静岡の教育を牽引する